

街路樹

学力向上に向けて ⑫

～ 教材研究と目標 ～

昭和62年に筑波大学附属小学校で有田先生による3年生社会の商店街の授業を参観した。興味関心を喚起する資料提示。驚き、困惑、葛藤の中から出てくる切実な「問題意識」。さらには、観察したくなる、そして調べたくなる「課題設定」。それを受け、子どもたちは調べ、考え、表現する。最後に、有田先生は次のような発問で、子どもたちの考えをゆさぶった。「どうして食品売り場は地下なの?」「デパートは商店街といえるか?」であった。

心が動いた。早速、授業でやってみた。

T 平にある大黒屋。どんなものを売っているかな。]

C 数人が挙手。反応が鈍い。

T (おかしいと感じて) 大黒屋にいったことある人?

C 数人が挙手(小名浜から平に行く人はその時代少なかった)

ここにいたって、実態とかけ離れた授業であったことに気がついた。そして、教材になっていなかったことに気がついた。教材研究もせず、目標も押さえず、ただ心のおもむくままの授業をしていたことを深く反省した。理論ばかりが先走りしていた。以来、教材研究と目標について次の点に留意するようになった。

○ 目標は4観点で押さえ、「なぜ教えなければいけないのか」そして「その教材の教育的な価値」、「教科の本質」をとらえて授業に臨むようにした。

○ 本時の目標は、「何を」「何を」「どの程度」「何ができるようになるのか」で押さえるようにした。

○ 本時の目標だけをとらえるのではなく、単元の指導計画を意識した。本時の学習は、4観点の中で何が重点となるか。それは、「気づく」のか「知る」のか「理解する」のか「考える」のか。さらに、子どもが身につけるのは何か。「読み取り方」か「調べ方」か「見方」か「考え方」か「まとめ方」なのか。

○ 本時の目標によって、導入も学習活動もまとめのあり方も違ってくることに留意して授業を組み立てた。

日々の授業を充実させる上では、実態をとらえること、さらに教材研究をして「教科書で教える」ということは、とても奥が深いと考えるようになった。

授業改善・指導技術 ②

～ 教材研究の進め方 ～

授業改善を進めていくためには、教材研究は欠くことができません。様々な方法がありますが、PDSI(計画・実行・評価・改善)のサイクルで行うとよいでしょう。

■ 教材研究の過程と内容

P: 教材を取り上げた目的を明確にし、子どもたちの実態から指導計画を考える。

①単元のねらいを明らかにする。②学習内容の精選をする。③単元計画を練る。④本時の指導過程を練る。

D: 時間配分や指導内容や方法などの実践記録をする。

⑤授業実践と記録をする。

S: 授業記録を基に授業を振り返る。

⑥授業評価から成果と課題を明らかにする。

I: ⑦評価に基づき授業改善する。

■ 手掛かり

○ 学習指導要領及び解説書、教科書、指導書、参考書、事前テスト、指導案、授業記録と分析、子どもの授業評価、事後テスト、指導内容の理解、改善点の整理など。

※ 計画の段階で学年間で話し合ったり、授業研修で意見・助言・指導をいただいたりする機会を持つことも大切です。

学級経営のヒント ②

～ 児童・生徒理解を指導に生かす ～

学習指導や生徒指導、学級づくりにおいて、一人一人の児童・生徒の能力や個性などを理解しないでは、適切な指導は望めない。児童・生徒理解は、次のような方法・姿勢で理解し、指導に生かしていきたい。

□ 客観的に理解する。(観察・検査・調査等)

□ 一般的理解を深める。(発達段階の特徴)

□ 肯定的理解に努める。(よさを見いだす)

□ 共感的理解に徹する。(児童生徒の立場に立つて)

□ 多面的・組織的に理解する。(多くの目で見ると)

□ 心理的事実に迫る。(目に見えることと異なる事)

※ 特に、児童・生徒理解を深めるには、児童生徒とふれあう機会(共学・協働・共遊)を持ち、カウンセリング・マインドの姿勢で理解することを大切にしたい。

研修の感想・講義紹介

経験者研修Ⅰ〈全体研修〉

- 採用志願書の文章を改めて知り、初心を今一度思い出すよいきっかけとなりました。(小・K)
- 教師からの一方的な指導にならないよう、児童の変容を見取り、よさをたくさん見つけられるよう心がけていきたいと思えます。(小・S)
- 講話を聞き、見る目、聞く耳の大切さを再確認した。(小・U)
- 「学校とは、そこにいる先生」という言葉を忘れず、生徒の頑張りを評価して賞賛してあげるよう心がけたいです。(中・T)
- 形だけの生徒指導になっていないかということについて振り返るよい機会となりました。「授業の中で生徒指導を生かしてほしい。」という話に、これから頑張っていこうという気持ちになれました。(中・K)
- 子どもの変化に気づいてあげられるよう、自分自身気持ちにゆとりを持って、保健室経営に取り組んでいきたいと思えます。(養中・U)

研修主任研修①講義より

5種類の授業検討会と特徴

- ① ワークショップ形式・・・少人数による作業や協議を通して、授業者と参観者が一体となり、授業改善を具体化していく検討会。
- ② ペアの話し合い型・・・協議の視点を明確に持ち、参加者一人ひとりが、授業改善の提案を基に構成する検討会。
- ③ プロセスシートの活用型・・・授業者は、授業のねらいや願いと、児童生徒とのかわりにおいて起きた事実とのズレを確かめ、授業改善の気付きを参観者とともに得ることができる検討会。
- ④ フリーカード法・・・参観者の多様な見取りや質問事項を記入したカードを時系列・項目ごとに整理し、焦点化した話し合いを行うことにより、授業改善の気付きを得ることができる検討会。
- ⑤ 全体での協議・助言型・・・あまり形式にとらわれず、自由に意見交換ができ、指導助言の時間を十分に確保した検討会。